

A quantitative study of neurofibrillary tangles, senile plaques and astrocytes in the hippocampal subdivisions and entorhinal cortex in Alzheimer's disease, normal controls and non-Alzheimer neuropsychiatric diseases

メタデータ	言語: eng 出版者: 公開日: 2017-10-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/15522

学位授与番号	医博甲第1376号
学位授与年月日	平成11年7月7日
氏名	村 守 史 彦
学位論文題目	A quatitative study of neurofibrillary tangles, senile plaques and astrocytes in the hippocampal subdivisions and entorhinal cortex in Alzheimer's diseases, normal controls and non-Alzheimer neuropsychiatric diseases
論文審査委員	主 査 教 授 越 野 好 文 副 査 教 授 加 藤 聖 教 授 山 下 純 宏

内容の要旨及び審査の結果の要旨

神経原線維変化と老人斑はアルツハイマー変化と呼ばれ、アルツハイマー病に特徴的な病理学的変化で、アルツハイマー病の病理学的診断基準に用いられている。しかしアルツハイマー変化の分布と進展、神経原線維変化と老人斑の関係や痴呆との関係については未だ解明されていない。さらにアルツハイマー病以外の神経精神疾患や痴呆のみられない老人でも、アルツハイマー変化が高率に認められ、その判断が困難なことが多い。

今回の研究は、正常対照者および非アルツハイマー神経精神疾患患者にみられるアルツハイマー変化がどの程度痴呆の病理学的基質であるかを評価するために、非アルツハイマー神経精神疾患群、正常対照群およびアルツハイマー病群で、アンモン角、海馬台および内嗅領皮質の3領野で、神経原線維変化、老人斑、および星状膠細胞の3種類の構造物について定量的に測定した。

得られた結果は以下のとおりである。

- 1) アンモン角と海馬台での神経原線維変化の密度は、アルツハイマー病群が非アルツハイマー神経精神疾患群より有意に高かったが、内嗅領皮質での神経原線維変化の密度は3群間で有意差は認められなかった。
- 2) 老人斑の密度は、すべての領野でアルツハイマー病群が非アルツハイマー神経精神疾患群と正常対照群より有意に高く、神経原線維変化と異なる結果だった。
- 3) 星状膠細胞の密度は、すべての領野でアルツハイマー病群が正常対照群よりも有意に高かった。
- 4) 星状膠細胞の密度はアルツハイマー変化の密度と相関し、特に老人斑の密度とはすべての領野で相関がみられた。
- 5) アルツハイマー変化の密度と痴呆の重症度との関係では、神経原線維変化の密度はアンモン角と内嗅領皮質の2領野で相関が認められたが、老人斑の密度はどの領野でも相関は認められなかった。

以上の結果から、アルツハイマー変化、特に神経原線維変化の痴呆に対する関与は、その変化が内嗅領皮質に限局されている場合は否定的だが、内嗅領皮質から進展した場合には痴呆に関与しているものと考えられた。

以上、本研究はアルツハイマー病の痴呆の進展メカニズムを組織学的に明らかにしたものであり、痴呆の早期発見、原因解明に貢献する価値ある論文と評価された。